第 56 号
平成4年3月

会　報

発行　北海道高等学校
教育研究会本部事務局

〒064 札幌市中央区旭ケ丘6丁目5番18号
札幌旭丘高等学校内
電　話　561-1221番

ごあいさつ

北海道高等学校教育研究会
会長　本間恒太

早いもので，本年度も残り少なくなってまいりました。会員各位には例年のこととはいえ，年度末の反省や卒業式，高校入学者選抜その他の業務で，ご多忙の日々をお過ごしのことと存じます。

本会も新年度はいよいよ創立30周年を迎えることとなります。その前年にあたるこの度の第29回大会も，3,685名の参加者を得て，盛大に開催することができましたことを大変うれしく思います。

毎年のこととはいえ，このような大会を終わらせますと，本年の大会は皆様方にご満足を頂けたであろうか，全大会運営，講師の選定，教科部会の運営等適切であったろうかなどと思いを巡らせております。

運営，講師の選定等については，支部，教科の関係者の皆様のご意見を伺いながら，当日を迎えているわけでありますが，やはり一抹の不安が残ります。とくに全国にも類をみない研究大会だけにその声価を落としたくないし，活動が低下しないようにと緊張感をもって事に当っている次第であります。ひとつ，気がかりなこととしては，本会の登録会員数が，昭和61年度以降，残念ながら6千名を切り，漸減の傾向をみせていることであります。その原因や今後の対応については，事務局でも鋭意分析を行っているところであり，明年の30周年を期して，再び会員数の増加に向けて，新たな手だてを講じてまいりたいと考えております。会員各位におかれても，何とぞお力添えを賜りますようお願い申し上げる次第であります。

ところで第29回大会は，中央講師として，作家であり，精神科医でもあられる，なだいなだ先生をお迎えして，医師としての立場に立脚した，鋭くかつ温かなヒューマニズム溢れるご講演を「心の底をのぞく」と題して頂いたところであり，多くの会員各位から，大会終了後今日までの間に，好評のことばを頂き，安堵いたしております。

さらに道内講師としてご講演頂きましたところの北海道文理科短期大学長であられる，坂本与市先生のお話しは，「オスとメスのエソロジー」と題するもので，これまた教育現場で努力なさっておられる会員各位にとって，新たな視野を開いて頂いたところであります。

ところで，開会式のごあいさつでも申し上げましたが，高等学校教育をとりまく諸情勢は一層激動をきわめ，困難な課題が次々と直面してくる状況がみられてきております。

新学習指導要領への具体的対応，そのための個性を生かす教育の推進即ち教育の多様化，生涯学習，情報化，国際化への対応，在り方生き方教育の推進，これらを教育課程でどのように具現化するか，それに伴う直接課題として，履修と修得との関連，選択をいかに拡大するか，標準単位数の増減の措置，その他の科目やその他必要な教科の設置，科目の一単位ごとの分割履修の認定，進級卒業認定の弾力化などの措置，家庭科男女必修をいかに進めるかなど，枚挙にいとまがないほどであります。さらに本年二学期より月一回実施されると伝えられる学校週五日制の問題，近く国会で批准されると聞いている「子どもの権利条約」への対応，全国的に条例制定されている「情報公開制度」による情報開示請求への対応，早期から予測されていた，急速に進む生徒減少への対応などなど，これらは集中して目前に到来してくる問題ではなかろうかと存じます。

そのためには，時代の変化を洞察する目を持ち教師自身の意識改革を図りながら，誤りない教育を推進していく必要を，あらためて思いめぐらしているところであります。

末筆になりましたが，会員ならびに関係各位のご健勝とご活躍を念じ上げ，来るべき30周年記念研究大会の実現と成功に大きな期待をかけてごあいさつといたします。

第29回研究大会の報告

日程第一日・全体集会

全体講演・午前の部

〔講演要旨〕

心の底をのぞく

精神科医・作家　**なだ　いなだ氏**

どうか気楽に聞いてください。緊張して聞いて胃に穴があいたなどということになったら精神科医が病気を作っていることになってしまいます。紹介の文章は私をえらそうに形容してくれるのですけど，私達の育った時代は混乱の時代でして勉強などよくできなかった時代です。ほとんど小・中学校は戦争の時代で最後に陸軍の幼年学校で終戦をむかえましたので，東京にもどってきまして，何もする気になれずニヒルになっていた所，母親がうるさく“医者になれ”と言いだして医学部を受けることになったのです。私は生来おっちょこちょいで，でもまあそのような気質の子供はとても心優しいのですが，子供の頃よくお手伝いなどしまして，お使いに行ってくれと言われますと“はい”といい返事ででかけるのですけど，自転車に乗って進んでいるうちに「さてどこに行くのだったかな」となりまして家にもどって肉屋に行くということを聞いて，それ行けと肉屋の店先に来てから「さて何を買うのだったかな」とこんなことばかりしていました。まあそれで落ちるつもりで，落ちれば母親もあきらめるだろうと思い受けたら医学部だけ受かってしまったのです。まあ，そんな時代があったのですね。その内申書を書いてくれた先生は，私が頼みに行ったとき私の成績をみながら，“まぐれということもあるからな”と励ましてくれたのですね。この言葉は人生で忘れることのできない大切な言葉の一つです。それでまぐれで入ったのはよかったのですけど，入ってからが大変だと思いました。きっと回りは秀才ばかりでついてゆくのが大変だから，本当はやめようと思ったのですけど授業にでるとそうではありませんでした。最初の授業はフランス語で「bonjour monsieur（ボンジュール・ムッシュー）」を訳しなさいと言われたら，私の横にいたのが立ち上がり，「ボンジュールさん，こんにちわ」と訳してくれたのですよね。ああ，ここにも俺と似たような奴がいる，こいつと仲良くしようと思いまして，そしたら彼も精神科医になったので大学でてからも仲良くしています。そのあとまぐれが増えていきました。卒業の時には40人中38人はまぐれだった気がします。まあそれでこんな不勉強でおっちょこちょいの私が医者になってもいいのでしょうかと卒業時には先生の所に相談することになりました。すると先生は，世の中を単純にみろ。医者の所に来る患者は３種類しかいない。ほっとけば死ぬ奴。ほっとけば直ってしまう奴。ほっとけば直りもしないし，死にもしない奴。最初の奴は勘がよければわかる。お前は勘でここまできた。それなら必ずわかる。そして見つけたらえらい先生の所へさっと送ってしまえ。残り10人中９人は最後の奴だ。治りもしないし死にもしない。とにかく後はほっとけ。この人達を大切にしろ。大切に長くつきあえ。この人達がお前の生活を支えるんだ。この人達をおろそかにしてはいけない。このように言われ，私は本当に良いことを学んだという気がしました。それで，ほっといても死ぬ人がほとんどいないということを考えて精神科医になろうと思いました。そして，５年たち私にも転機がおとずれました。日本で初めてのアルコール中毒治療専門病院が建つからそこへ行けと言われたのです。その当時，アル中の患者はどこへ行っても嫌われものでした。何故かと言いますとドアをぶち壊して逃げたり，窓から逃げたり，いろんな手段を使って逃げたりする人が多かったからです。その上，私はアルコールの勉強なんかいっさいしたことありませんから，途方にくれて教授にどうしたらいいか聞きました。そしたら，自信をもってやれと言ってくださいました。アル中は直らない，だからお前がやろうが，もっと優秀なのがやろうが結果は同じだ，だから心配するな，と励ましてくれました。直らないというならば直せなくても私の責任ではないと考えましたらとても気楽になりました。それで扉を壊されても困りますから鍵を開けてしまいました。こうなると逆に逃げないものですね。どこに行ってもダメだった患者がここで直ってしまったことがあります。彼が言うには日本で一番の名医の言うとおりにやればいいと思ってやってみたがダメだった。ここで初めて自分がしっかりしなくちゃダメだと気がつきました。自分に決めさせることが大切です。子供の心が見えないと言う人が増えていますが，話をしていないだけです。ただひたすら相手の話を聞く，これが相手の心を理解できる唯一の方法です。登校

拒否は親子関係からくる神経症の場合が多いです。何故行かなくなったか理由をよく聞くことが大切です。子供は現在高校生でも小・中学校とひとつながりです。人間の心は目では見えません。心は心で見るしかありません。そのためにとにかく相手の話に耳をかたむける。簡単なように見えてもなかなかできません。今後とも我々に求められていることだと思います。

全体講演・午後の部

〔講演要旨〕

オスとメスのエソロジー

北海道文理科短期大学学長　**坂本　与市氏**

私の恩師の一人に，当時まだ十九才の代用教員がいた。地球の全周を求めるある問題があり，私一人が解けたという事があった。彼は私に皆の前で発表する機会を与え，ほめちぎってくれたのである。おかげで数学が大好きになり，その後も数学だけは大得意にすることができた。

当然大学は数学科が希望であった。ところが封建的な農家の家長であった祖父が許さなかった。農家のせがれだったら，それらしく近くの農業大学か，さもなくば京都の大学でお坊さんになる勉強をせよと厳しく申しわたされてしまった。私はやむなく農業を勉強しようと考えた。

昆虫を選んだのは泥いじりが少なかろうという，他愛ない考えからであった。ところがその後，大きな台風禍を目の辺にして農業そのものへの意欲が萎えてしまい，卒業してから中学校で理数を教えていたのである。勿論，一度志した農業を捨てた事は後めたく，再び農業に進路変更をしようと決心した。

その時私を北海道に招いてくれたのが，酪農学園大学の樋浦学長であった。私が行くと学長は長ぐつ姿で，親しく出迎えてくれた。しかし何と，始めの仕事は牛糞運びや畑の除草を朝五時半からである。３Ｋどころか５Ｋくらいの重労働だったがなかなか給料がもらえない。いぶかって学長にたずねると，「君は農業をやった事がないのだろう。北海道の酪農はなおさらだね。それを教えてあげて授業料は免除してあげているんだから，云々。」という調子である。十ヶ月もしてから，今度は高校へ行って化学を教えよという命が下った。苦手な化学であったが「化学の真髄」という易しく書きおろされた本で勉強し，助かった。東大の先生でも家の女中さんにも分るように授業の原稿を練った方がいるというが，この時は本当に分かりやすい事が大切だと思った。

それ以来，給料も頂き，次に大学の助手を勤める事になった。ここで昆虫の研究に顕微鏡が欲しいと希望したら，樋浦学長に「他の大学と同じ事をやってもしかたない。」と悟され，草原の昆虫の観察を始めた。その一つにギシギシタコゾウムシがある。食草のギシギシも，この虫も応用的価値は当時全く無かった。しかし調べるうちに，自然のサイクルの中では両者はかけがえの無い存在である事を実感した。将来禍根を残さぬように，自然保護ではこのようなものも，守らねばならないと考える。

以上の事に私は１つのつながりを感じている。数学好きの生徒には，育ててくれた代用教員。農家のせがれに食べる物か，心の問題のどちらかを学ばせようとした祖父。経験のない若者に本物の酪農をさせた樋浦学長。そしてギシギシとそれに依存するゾウムシ。一見重要ではない存在が深い結びつきを持った，ユニークなかけがえの無い存在になるのだ。

さて，ゾウムシの研究ではオス・メスの見分け方に苦労した。そもそも何故，生物にはオス・メスがあるのだろう。それは，両性生殖によって，子孫に豊かな個性が保障されるからである。オスメスの無い無性生殖で生まれた子にはそれが欠けている。オスメスの協同で子孫が作られるのは自然の知恵の１つである。生物の生殖行動について以下に例を挙げてゆこう。

ウニは親自身で子供の世話ができない。その代替の戦略として八百万もの卵を生む。体内の栄養をまさにふりしぼるような行動は圧巻である。

モンシロチョウも，卵から我子が生まれる頃に親は居ないから状況は似ている。しかし母蝶は生まれてくる子の為に，まちがいなく食草の上に卵を生んでくれる。よく図鑑も調べずに食草であるアブラナ科の植物を見分けられるものだ。

父親の例では，コオイムシが顕著である。オスが背面に産卵されるのだ。自分の運動性を犠牲にして，コオイムシのオスは子を守る。

夫婦ではダイコクコガネが一夫一婦の見事なチームワークで子育てをする。オスは実験的に与えられたメスには見向きもせず，初めにつがったメスが見つかるまで探し続ける。夫婦の絶妙な協力体制で，子が成虫になるまで数々の労働をこなすのである。

以上，何れの例も科学的には「本能」という言葉で説明することはできるかもしれない。しかし全てをこの言葉に帰してしまう事はできないような気がするのだ。オスとメスとその子は深い慈愛で結ばれている。どんな生物，人間にもその存在を意味づけるつながりがある。私にはこういったものが，もっとスケールの大きな，大自然の計略の中にある様に思えてならないのである。

日程第二日・部会別集会

国　語　部　会

〔講演要旨〕

国際化・情報化社会の中の国語教育
—1970年以降におけるパラダイムの変換—

国学院短期大学助教授　川邊　為三氏

一口に国際化といっても，この地球上には言葉・習慣・体内リズムが全く異なる多民族が存在しているのだから，そうそう容易には展開していかないということを，まず，肝に銘じておく必要があるだろう。ただひとつ言えるのは，国際化というものに，語学の熟練は必ずしも必要ではないということである。

語学とはあくまでもひとつの言語技術であるから，そこにある種の重要性を求めるのは適当ではない。むしろ，語学を通して何を伝えようとするのかが大切なのである。

では，今我々は国際化の第一歩として何を伝えるべきなのか？やはりそれは，日本独自の精神文化ということになろう。そのためにはまず，日本の古典といわれるものを，もっと広く学んでいかなければならない。

「幽玄美」「わび・さび」などと呼ばれる，日本のオリジナリティー的美意識の根源を探ろうとすれば，おのずと古典を知る必要が生じてくる。

しかしながら，最近は，その実利性の乏しさから，古典軽視の風潮が強くなってきている。実利の学問の追求は底の浅い文化を生み出すことにしかならないという事実が見落とされているのだ。やみくもに合理主義が尊重されてきた弊害と言えるだろう。

とかく現代社会は実利にこだわりすぎる傾向にある。合理性の名のもとに，便利さのみを追求しすぎた結果，まやかしめいた情報が氾濫する危なげな情報化社会が確立され，様様な問題点が明らかになってきたのである。

「情報化社会」という，ひとつのテクニカル・タームの中に，ありとあらゆるものを突め込んでしまうために，情報の定義そのものがあやふやになっている。にもかかわらず，我々はこの情報化社会の幻想にまどわされ，情報の価値の方が物の価値より大きいという錯覚に陥っているのだ。つまり，物の実体よりも，記号の方を重要視しているのである。

こうした現状はやはり異常であると言えよう。今こそ，改めて物の価値と情報の価値とを考え直し，合理性と便利性とを区別した上で真の合理主義を追求すべきなのではないか。

そもそも人間存在とは合理性を超越したところにあるのだから，合理主義云々ということではなく，「自分の生きる意味とは何か」といったことが，人間としての永遠の課題となるはずなのだ。

文学とはこの点を我々に再認識させてくれるもので，国語教育はこの文学を通して，真の合理主義を教えていくものなのである。

だからこそ，国語教育の中に日本の伝統的美学を残しておけるように，古典というものが，単なる言語の解釈技術に終始しないようにすることが大切と思われる。このことが日本の国際化への近道になるのだから。

〔研究発表〕

高教研二日目の教科部会では，三名の先生の研究発表が行われた。

室蘭清水丘高校の東谷一彦先生の「課題ある授業（現代文）」では，一時間の授業の中での課題設定の重要性について発表された。一方通行の授業の中で生徒に内容を理解させるだけにとどまらず，その授業の中で生徒の感受性をいかに引き出すか，という発表であった。

沼田高校の高松洋司先生の「漢文に対する生徒の興味づけについて」では，音読指導での生徒の自主的な参加，さらには漢文の句法を理解させるための作文指導などの実践例が報告された。

深川西高校の平原正道先生の「小説としかけ（レトリック）を読む」では，ともすれば主題指導，内容指導のみに終わってしまいがちな国語の授業を，「何故この作品は我々に感動を与えるのか？」という視点に切り換え，語句一つ一つ，文章の形式そのものから教材を読み込んでいく，という実践が報告された。

研究発表に対する活発な質疑応答がなされた後，二名の助言者からの助言があった。

根室教育局の渡部泰夫指導主事からは，まず東谷先生の発表に対して，実際の授業では生徒との問答も成り立たず思うようにならないことがあり，隣り同士の生徒に話し合わせたり，小さな紙に意見を書かせる時間を持つなど，立体的な授業も重要である，と助言された。高松先生の発表に対しては，漢文についてのものであり新鮮だったとした上で，音読の指導には様々な方法があるので生徒に応じた工夫が必要であると助言された。また，漢和辞典についての授業もあってよいと説かれた。平原先生の発表に対しては，すぐれた指導力を評価された上で，生徒

を主体とした授業のための方途として，主題の追究でなく，ことばに焦点をあてた，という点が新鮮であるとされた。

網走教育局の吉田武史指導主事からは，今回の研究発表の資料は保管し，各校での研究会等に利用してほしいと述べられた。東谷先生の発表に対しては，何を訊くか，どう訊くか，どう処理する（生かす）かを大切にしていると評価された。高松先生の発表に対しては，古典学習において現代語訳は出発点でしかないこと，また表現意識を読みとるためのものとして，文法を無視した古典はないことについて助言された。平原先生に対しては，言語指導を中心としている点で現代的であり，生徒の新しい発見があり，波紋を呼び起こすとしたら，それは成功だろうと述べられた。最後に，参加された先生方に，自分なりのテーマ（課題意識）を持つべきであると述べられた。

社　会　部　会

全　体　部　会

〔講演要旨〕

21世紀の若者に求められているもの，
今高校教師は何をすべきか。

朝日新聞社アエラ編集長　**西村　秀俊**

日本は，戦後から高度経済成長を成し遂げ農業化社会から工業化社会への転換等，世界史の中でも類のないスピードで大きく変化した。現代に生きる若者は，物質的に恵まれた社会に生きていても，そのありがたみが理解できなく，年輩者が思うほど幸せではない。

今の若い人々は，昭和40年以降に生きており「新人類」と言われ，それ迄に生きてきた人々とは違う世界で生きているのが現実であり，彼らを理解するのは難しいが，理解してやらなければならない。

人間は一人では生きていけない。我々が生きているのは共同体であり，細分化された分業社会である。社会とは，人間同志の係わりあいが大事であるが，現在は産業構造の変化に伴う都市化により，人間同志の係わりあいが希薄になっており，本来の社会でなくなってきている。また，都市化によって人間関係，文化，人間の生き方，暮らし方がこの30年間で大きく変化して，新しい地域での人間関係は生まれなかった。核家族も必然的に生まれたのである。

現在は，戦時の「倹約は美徳」から「消費は美徳」と言うように価値観が転換して，それまで存在した人間関係をも分断した。産業化・工業化社会は，例えば，電器製品が家電から個電（テレビは一家に１台から，１人に１台）となる様に人間を孤立させていき，そして，消費を拡大してＧＮＰが拡大していく。この時代は，人間が手を取り合って一緒に行動する喜びが少ない。現在の若者は，一見，明るく行動しているかのように見えるが，本当は淋しいのではないか。人間として係わりあう普通の人間関係が分からないのではないか。若者は，人間関係に慣れていかなければならない。生きていくためには，数多くの人々と係わらなければならないし，その方法も変化させていかなければならない。工業化社会では農業化社会と違い，家族も少なく人間関係を学んでいけない。学校もかつてはパラダイスであったが，今は人間関係を狭めている。現在の生徒は，何故学校に行かなければならないか理解できない。工業化社会では，技術者養成のための大学が数多くできた。大卒者が多くなり，誰でも大学へ行こうとする。それは，学問をするためではない。皆が行くからであり，目的意識が少ないのである。高校も同様である。学ぶ意識も少なく，目的意識も少ない生徒を教えるのは大変である。しかし，学校は生徒のためにあり，社会人となるために学ぶ場所である。現在の若者は，豊かな社会を歩んでいく条件にある。これは，人間同志の係わりの中で喜びを実感させて実現しなければならない。教師の最大の報酬は，教え子が生き生きとしている事と思う。先生方頑張って下さい。

現代社会部会

〔講演要旨〕

ソビエト民主化の行方

ソビエト総領事館領事　**Ｖ・Ｆ・フォーキン氏**

昨年12月，世界史の試みであった社会主義による国ソ連が消滅し73年という長い歴史の幕を閉じた。これには様々な要因が考えられる。

旧ソ連には15の共和国があるが，それぞれの共和国の中には多くの民族があり，128 民族あると言われている。さらに少数民族を含めると400 近い民族が存在するという。そして各民族がそれぞれの文化を持ち，その文化を基礎にして経済や政治などが成立している。よって旧ソ連一つのまとまった文化というものが成り立たなかった。このことが一番の原因と考えている。

旧ソ連では，各地域を調和的に発展させようと努力をしたがなかなかうまくいかない。
資源が豊富であるにもかかわらず，それを効率のよい方法で製品化するまでの過程が甚だうまくいかず，流通機構の未成熟もかさなって，生産性の低いコス

ト高の製品を生む結果となった。また，それほど一生懸命働かなくてもある程度の経済的保障があるという社会構造も経済を悪化させた。

このような状況から，1985年，皆さんもご存知のゴルバチョフによるペレストロイカが始まったのである。当時は改革派の数が少なく，多数いる保守派とバランスをうまくとりながら進められていたが，このペースではうまくいかないという急進改革派により昨年の動きのような結果となった。連邦解体の動きは1989年からあった。バルト三国の独立をきっかけに他の共和国の独立も連鎖的に進んだが，まったく独立した一つの国として今後歩んでいくのではなく，今まで一つの国として機能していたのであるから，各独立国は依存し合いながら発展していくことになるであろう。

また，教育面でも改革が進んでいる。3年前より小・中・高－4・5・2年制を導入し，また，ベルリンの壁崩壊以降，海外留学生の数も大幅に増やし，教育的効果も上がり国際化が進展している。

〔研究発表〕

ビデオを用いた私なりの授業の工夫
～現代社会オリエンテーションを兼ねて，
環境問題をいかに取り上げたか～

古平　**城座　研一**

「社会科は暗記だから嫌い」と思っている生徒に対し，授業を成立させるためには，ビデオはかなり効果的であると考える。

ビデオ授業のポイントは，見せっぱなしの状態はさけ，ビデオを3分，5分，10分と小出しにし，板書，発問，作業を間にはさむことが大切である。また，ビデオ視聴プリントを事前に配布し，視聴にあたってのポイントをつかませることもしている。

助言者の太田氏（道研）より，古平という地域を生かした，生徒の身近な問題を取り上げた視聴の試みがほしいと助言があった。

日本史部会

〔講演要旨〕

古代蝦夷と北海道

静修短期大学教授　**関口　明氏**

なぜ蝦夷研究が盛んになったのだろうか。その理由は，蝦夷研究を新しい視野を持って再構成する傾向が顕著になってきていることである。従来の律令国家からの日本史と違う，北から古代史をみて問題提起していきたい。

まず，蝦夷観念であるが，高橋富雄氏の論説から民族的観念と政治的な観念に分類できる。要するに蝦夷とは，中央政府の外に立ってこれに敵対関係にある方民たちを指す，ということである。その中で，政治的状況から用語が分れると考えられる。律令国家が成立するという状況の中で中華思想から使われた字に「狄」がある。また西の衆夷に対し「蝦夷」が，「賊」は反乱が激化する状況の中で実体に則して使用している。

次に律令国家と渡島との交易による関係をみていきたい。延喜式では独肝・熊・葦鹿皮などが内蔵寮に交易雑物として納められている。このことは身分制社会での身分標識を外から動揺させるものであった。同じような影響は北海道式古墳の出土品の例からもみられる。それは銙帯金具（令制の位階を示す飾）であり，恵庭で2種類の銙帯に類する物質が作られている。このような状況で渡島の人は位階や禄物を与えられ密貿易を行っている例が扶桑略記や類聚国史などでみられる。

さて，今までのエミシをエゾと言うようになったことは，文化的変動によって民族的意識を持たれたためであり，その要因は毒矢の使用に関する出来事があると考えられる。今までは文化の差を誇張してみられていたが，諏訪大明神絵詞などの記事からは，確かに民俗観を持たれたことが窺われる。

結論として，古代蝦夷とはオホーツク文化圏や大和朝廷と関係を持ちながら律令国家に対し政治的な力を持った地域であった。そしてその渡島＝北海道が次の段階でアイヌ文化圏として継承されていくと考察する。

〔研究発表〕

効果的な授業実践の試行錯誤

浜頓別　**二瓶　耕一**

生徒がより理解し易い授業，興味を感じて集中できる授業づくりを目指し，様々な工夫を凝らして行った授業実践についての発表であった。

以下，その内容を簡単に列挙する。

1．日本史の全体の流れを理解させるために取り入れた「年表式板書」。
2．板書を補い，生徒に作業させるために多種多様な「プリント学習」を行なう。
3．生徒に「一瞬の集中」を喚起するために，数々の実物教材（軍服，黒船の模型，日本刀，古銭…）を用いる。
4．「五感を使った学習」を目指し，視聴覚教材（VTR,スライド，音楽テープ…）を効果的に用いる。
5．日本史学習の総まとめとして，生徒に卒業論文

を書かせて，これを製本している。これは今年で第５号を数える。

発表を振り返り，これらいずれの実践も，その根底にあるのは，生徒に主眼をおいて授業に取り組む発表者の熱意と，そこから生まれる創意工夫であり，その一つ一つが数多くの示唆を含むものであった。

世界史部会

〔講演要旨〕

世界史におけるイスラーム文化

東京大学東洋文化研究所　**後藤　明氏**

西洋（ヨーロッパ）中心の世界史の克服。そして，今回は「地球上における人類史」におけるイスラーム文明の位置について考えてみるということで講演が始まった。

人類の文化圏として，米・飯文化圏と麦・乳・肉文化圏が考えられる。米文化圏は日本独自ではないのと同様，麦文化圏も中央アジア，インド，中東，北アフリカ，アメリカとヨーロッパだけのものではない。また，歴史や天文という科学の知識は西洋から学んだものとされているが，アラビア科学としてシュメール人から始まっているものであり，いわゆる西欧の独自のものではなく，広くヨーロッパの一部のものとして考えられる。

農業には四つのタイプが考えられる。１）移動する農業，２）粗放農業，３）集約農業，４）科学農業である。人類は狩猟・採集により生活していたが，最初人間は特定の環境の中でしか生活出来なかったのではないか。そこで，狩猟・採集の延長として，前６千年紀に肥沃な三日月地帯で粗放農業が始まった。世界で唯一の定着集落であり，文明の要素を含んでいた。前４千年紀のメソポタミアとエジプトには，世界人口の過半数は定着していたのではないか。集約農業は前３千年紀後半にインダス川流域で，前２千年紀に中東で広がる。前１千年紀に西アジア，環地中海地域に粗放農業と集約農業が行われる。ガンジス河流域と黄河流域では集約農業が始まり，人口数千万規模の３地域を結ぶ交通路が開発された。後１千年紀に米・飯文化圏の発達。ヨーロッパの粗放農業化に伴う交通路の拡大がイスラームの勃興をもたらし，世界人口が約２億人から４億人に倍増。後２千年紀前半，米・飯文化圏の優位の確立に伴い，商業上の優位に立つイスラーム商人が進出。16～７世紀に入り，ヨーロッパとアメリカの世界貿易への参加。18世紀には新大陸を紀元とするじゃがいもの普及によりヨーロッパ世界が膨張し，人口が数千万から１億人規模で膨張。世界人口が６億人から９億人へ。19世紀はアメリカの時代で16～17億人に，20世紀には50億人へと増え続けている。これらの人口を支えるためには，移動する農業や粗放農業では無理であり，集約農業や科学農業に頼らざるを得ないであろう。

文化・文明が世代を越えるためには言葉が必要である。言葉を２つに分けて考えてみると，日常言語と公式の言語がある。地域，家庭，環境での話言葉など生活の中で取得するものが前者である。後者は儀式や文章などに用いるための教育を受けた言語である。イスラーム文明を支える言語について。まず，ヨーロッパを特別と考えるわけではないので，ギリシアとオリエントの対立は考えない。古代オリエントではシユメール語とエジプト語があり，シュメール語はアッカド語，アラム語へと変化。ヘレニズム時代には，ギリシア語が主流となりローマ時代に伝承。イスラム時代にはアラビア語が主流となりペルシャ語・トルコ語へと別れていった。普段どの様な言葉を使用していたかはわからないけれども，またこのように残された記録の言葉は変化したとしても，歴史・文化は継承しているのだと説明。

古代において，文明は神々のためにあった。そういった多神教の神々の否定が，４～５世紀に，ギリシア語を中心とした環地中海世界での一神教革命であり，アラビアにおけるイスラームの勃興である。この変化は政治・経済には関係の無い人間の活動である。ムハンマドが異教の神々にたいして一神教を説いたのがイスラーム教のおこりである。アラビア語からなる「コーラン」を作成するが，これは過去からの継承であるが，時代の独自性を含んではいる。

最後に，イスラームの文明は都市社会を背景としていると説明がある。彼らは都市と結びついた遊牧民であり，農村であるから都市社会であると考える。また，都市のモスクに大勢の人々が集まって来るが，モスクが人々を組織しているのではなく人々の利発的な意思によるものである。１人１人がばらばらで，それぞれ神と契約しているのであり，その意識が都市文明を支えているのである。

そして，ヨーロッパの枠組みを崩した時に，何が出て来るのかということを再度投げかけ講演を終えた。

〔研究発表〕

わかる授業，考える授業を目指して

美深　**藤井　一志**

「意欲を持たせるためには，どうしたらいいのか」と言う疑問に，「出来なくても仕方ない」「楽しめる時を持つこと」を目的として試験的に，「教師

からの変化」という方法で取り組んでみた実践内容について発表。

1．（ノートの有効利用）授業の残り時間にわかったこと，わからなかったことを必ず書かせ添削してみる。2．（発問の工夫）一週間に一度答える場面をつくる。解答に対する評価の数値化。3．（プリントの有効利用）漫画の利用。記号化。4．（小テストの積極的導入）ESSの採用など。5．（1分間スピーチの導入）6．（歴史新聞の作成）生徒がB4の模造紙に作成し，順番に掲示することにより他の先生からも評価を受けることが出来る。など多くの実践例と反省点を発表。

これら教師側からの工夫により確かに生徒が興味を示し「楽しめる時を得ることが出来た」が，課題として，年間計画を通した一貫した教科指導の確立と教材の充実を挙げ，授業の中心となる講義形式の授業をいかに充実させるかをこれからも研究していきたいとして結んだ。

地　理　部　会

〔研究発表〕

効率的な“地理巡検（郷土学習）”に取り組む！

釧路北　**横田　久貴**

釧路北の横田久貴先生より，宿泊研修の行程を利用した巡検の実践が発表された。釧路から日高にかけて第一学年の宿泊研修の行きの行程を社会科によるバス巡検として計画した。年間指導計画に盛り込み，担当者が同一内容で事前授業を実施した。宿泊研修の目的は生徒指導面が中心であったが，行きのバスだけは社会科として巡検を行なった。利用したテキストは読みやすさを主とし，一町村一産業，同一の題材は使用しない等，配慮した。資料作成に苦労した分生徒が食いついてきてくれた。その他，夏休み利用の希望者だけ参加した釧路湿原ウォークラリーの紹介があった。新学習指導要領実施に向け，巡検の扱いをどうするか，「いつでも誰でもできる巡検」，効率的な巡検とはどういうものか等の問題が提起され，各校の実践報告も含め研究討議に入った。

まず，質問事項として，大樹・印南先生より，多学級に及ぶ際の説明内容の統一について（事前の下見・打合せを実施），札清田・村山先生より，評価法について（宿研集録の感想文），訓子府・中田先生より，企業の見学はあったか（釧路製紙），室栄・石塚先生より，宿研のバス利用では生徒に物見遊山的な気分があるのではないか（生徒指導中心の宿研という雰囲気が生徒にもある）の質問がなされた。〔（ ）内は回答事項〕 意見としては，函中部・奥平先生より，テキスト作成を生徒自身に作業させたら事前指導にもなるという話しもあった。続いて，巡検を実施している学校の報告として4人の先生から実践紹介があった。訓子府・中田先生は，1.2年生の地域学習としてスクールバスを利用して実施。室栄・石塚先生は巡検に対する評価法として，レポート提出＋定期考査に巡検内容を出題する実践。札南陵・山川先生より見学旅行時の小冊子の作成・事前授業の報告。札清田・村山先生より，テキストの作成・準備を万全にしていれば「いつでも誰でもできる巡検」が可能になるのではないかという実践報告がなされた。

最後に助言者より，次のようなまとめがなされた。足寄・三好先生「巡検は新学習指導要領でも重視されており，その目的を果たすためにも必要なものである。地理も社会情勢に関心を持って授業に向って欲しい。評価に関しては点数にあらわれなくとも努力した分評価してあげたい。」上川教育局・浜本先生「巡検は事前学習に時間をかければより効果的になる。巡検中の説明は少なくし，生徒に気付かせるよう持っていく。巡検は地域の見方・調べ方の訓練として重視されている。これからの地理の課題として，社会の変化に対応できる生徒の育成が必要で，地理を学んだことによって雑学ばかりでなく地理的な物の見方・考え方を定着させる指導方法を重視し，更に多い情報を自分で，選択・整理できる力を身につけさせたい。」

倫　理　部　会

〔講演要旨〕

臓器移植と社会的諸問題

北海道大学医学部教授 **加藤　正道氏**

倫理部会は，社会科教育に於ける今日的課題とその指導方法についてという研究主題にそって，北海道大学医学部の加藤正道教授から，「臓器移植と社会的諸問題」についての講演がなされた。先生は健康の概念から病気そして死という状態へと推移していく過程について説明され，今日問題となっている，「脳死」について全くの素人の私たちにもわかりやすく解説して下さった。一般に考えられている死の三徴候と「脳死」状態でなければ意味のない臓器移植とのかね合いの難しさは，私たちの死生観の転換を迫る大問題として医学会をはじめ社会全体に提起されている。これからの倫理教育にとって貴重なお話を専門家にうかがう，良い機会となった。

〔研究発表〕

倫理という科目が担うもの

旭川東 **平泉　信吉**

講演に引き続き行われた研究発表においては旭川東高校の平泉信吉先生から，「倫理という科目が担うもの」というテーマで，午前中の全体講演の―21世紀の若者に求められるもの～いま，高校教師は何をなすべきか―という，我々教師への課題に迫る発表がなされた。先生は自らの体験や，現在の生徒の分析から，「生徒は受け身の姿勢からなかなか抜け出せず，うっ屈した状態であるが，一方で多くの生徒は，現在の自分の在り様にどこか不安や疑念を持ちながら，自己を支える視点を持とうともがいている。それは進学校であるとか定時制であるとかにかかわらない。」という授業者としての立場に立ち，そのような状況にある生徒たちに，現実とぶつかり合えるような場を与えたい。そしてその中で自分たちの価値観を創造する場とさせたいというお考えで，授業を構成されている。自作のよく内容が精選されたプリント教材や自らの体験，ときには音楽や恋愛などの若者の興味関心の深い分野からの考察，ＶＴＲなど，様々な方法論・視座を考察するもの，そして自分なりの価値観・世界観を生徒に形成させるものという「倫理」の科目が担うものを『おもしろい授業』の中で学ばせる工夫をなさっている。特に先生は価値観形成の場としての「疑似体験学習」を重視されている。

発表後は，評価への質問・意見が多く出され，その関連で受験体制とのからみをどうするかという問題が提起された。また，疑似体験学習や小論文を書かせた後の発展について活発な意見が交換された。

最後に助言者の朝野先生から授業者としての視点にすぐれ，よく内容が精選されていること，自主教材から先哲への発展が指導計画の中にどのように位置づけられているのかという点。また評価については，客観的評価は必要だが，倫理という科目の性格上生徒は授業の前後でどう変容したか，また生徒自身も自分自身を振り返って評価するということがあっても良い，という講評をいただいた。

政治・経済部会

〔講演要旨〕

日本の政治改革の動向について

朝日新聞東京本社編集委員　**石川　真澄氏**

現在の日本の政治課題は，枝葉末節に分岐錯綜し焦点がぼやけてきている。そして，それは政治そのものの内側のシステムの中に解決困難な難題が秘んでいるためである。これを三つに整理すると次のようになるだろう。

第一に「政治倫理」の問題である。特にこれは「政治と金」の問題が中心議題となるであろうが，政治資金そのものを規制するというより，「厳格な公開」を徹底させ，政治資金の調達先を明らかにすることの方が重要であると思う。

第二に「政権交替」に関する問題である。最近政権交替を容易にするという考え方から「小選挙区制」の導入が一部の勢力から提案されているが，これらの議論は欺瞞性に満ちており，政権交替を可能にさせるのは結局のところ民意以外にないのであり，選挙制度ではないのである。単純な結論であるが，私は政権交替を可能にさせるのは，野党の努力次第であると考えている。

第三に，「国際化と日本国憲法との関係」がある。日本の実力が伸長するに従って，日本の国際社会への貢献の必要性が高まりつつあるが，例えば湾岸戦争にみられるような自衛隊の派遣は，憲法の拡大解釈によって行われたものである。このような解釈憲法は，憲法の条文は残るが，実質において憲法によって行政府の行動が規制できなくなるおそれがあり，極めて危険なことと言わざるを得ない。国際化の進展にともなって現行の憲法の見直しも必要になってくるのではないかと考えている。

以上述べた３つの難問こそが，現在我々の前に投げだされている日本の政治課題の中核であるといえよう。

〔研究発表〕

考察を深める学習指導をめざして
＝「現代社会」から「政治・経済」への総合的な学習指導について＝

木古内　**市岡　幸治**

「政治・経済」の指導において，「現代社会」の学習の深化発展を図り，学習効果を高めるには「現代社会」の学習の実態に即して体系的・理論的に学習させることが大切である。具体的には「社会科が生きていく力になっているのか」という日常的な疑問から発して，社会事象を見つめ，考える眼を育てるために，教え込みや伝達の授業から脱皮し，問題解決型の学習を導入することが必要である。このために多様な学習活動を展開している。

まず多様な生徒の意欲を引き出し，知的好奇心を刺激し，自ら問題を発見，追求できる教材の精選をおこなっている。具体例として地域教材の活用としてのアイヌに関する指導では，調理実習、講演，巡検，グループ別地域調査，発表学習など多様な学習

形態を生徒の実態にあわせて導入し，生徒自ら目標・計画をたて実施し，評価してゆく学習の中で，相互評価，自己評価が可能となるよう配慮している。

VTRや豊富な資料をもとに，研究発表がなされた後，研究協議が行われ，特に多様な学習指導をいかに年間の指導計画に組み入れるかという点に関して，教材精選の観点や指導方法の工夫について質疑応答があった。「社会科嫌い」の克服から出発して，生徒を生き生き活動させ，学ばせる努力が充分に理解できる内容であった。

数　学　部　会

〔講演要旨〕

情報化対応における「新しい数学教育」

早稲田大学教授　**寺田　文行氏**

高校教育の現状を見ると，①生徒に数学のすばらしさをわからせる②先生が教えがいのある数学③入試に対しては論理的・分析的思考力を試す問題の採用，が理想として挙げられる。今回の新カリキュラムはこの理想の下に研究された結果である。

1．新カリキュラムのスタート台

①多様化対応…マジョリティの数学教育の目標とその定義

②情報化対応…コンピューター等の数学教育への活用とコンピューター教育への場の提供

2．新カリキュラムの精神

①数学Ⅰ…現数学Ⅰの前半は高校数学の基礎とされてきたが，1学期中間考査以降半数以上の者が数学離れを起こすきっかけとなっている。新数学Ⅰでは数学的知性を身につけさせることを狙い，2次関数からスタートする形となっている。

②数学Ⅱ…現数学Ⅱは“落人の道”であり，生涯学習へつながる要素がない。新数学Ⅱでは“現場調達”を行いながら単線化を図った。

③コンピューター…数学の発展は操作・実験によるところが大きい。コンピューターを利用することにより，創造的思考を養成し，数学の大衆化・一般化を図った。

3．21世紀へ向けて

①論理的な思考力・表現力②分析的な思考力③創造力・理論化思考④問題解決力⑤根源模索思考という21世紀を生きるうえで必要なものを養成することを数学は担っている。

4．現実的問題への対応

①大学入試の不安…センター試験については，ⅠⅡＡＢから科目選択の形を要望中であり，ＡＢの問題例も研究中である。大学へは素直になりすぎず，強く要求すべきである。

②各学校のカリキュラム編成…創造力を養うには数学ⅠとＡで計6単位欲しい。

〔研究発表〕

①　札幌西　**中村　文則**

「多面的思考とその展開に関する一考察」

メネラウス型の問題の解法を多面的にとらえることによる柔軟で個性的な発想への誘い。

②　羽幌　**長倉　伯幸**

「数学Ⅰ指導メモ」

必要最小限の計算力をつけさせ，自信を持たせ，喜びを味わえるようにする指導の研究。

③　共和　**池上　学志**

「数学的な見方や考え方のよさを認識させる数学教育の在り方」

数学Ⅰで微分を取り上げることにより，生徒の意欲を引き出した実戦報告と問題提起。

〔助言〕　**上山・林**

新カリキュラムの精神と研究発表との関連，また，移行への示唆。

理　科　部　会

理科全体部会

〔講演要旨〕

新高等学校学習指導要領―理科の視点―

文部省初等中等教育局　主任視学官

山極　隆氏

Ⅰ　自然科学に相応の能力をもつ生徒への対応

小中学校における理科教育は，すべての生徒に共通の内容を課している。高等学校では選択履修を原則としており，化学と生物の履修がほぼ同率，物理の履修者は減少傾向にあり，地学の履修者は極めて少ない。

今回の改訂では，ＩＢを付した科目の上にAdvanced CouraeaとしてのⅡを付した科目を設置した。自然科学に相応の能力や関心をもつ生徒に対して，ＩＢ，Ⅱを付した科目，探究活動，課題研究等により応えようとした。

Ⅱ　高等学校生徒の多様化への対応

戦後，我が国は理科教育を重視してきている。初等中等教育段階の理科教育は，国際的にも高い評価を得ている。高等学校への進学率も急上昇し，理科を敬遠する現象が生じ始めているとも言われている。生徒の多様化に対応し，科学技術時代の中で科学的見方や考え方のできる賢い市民を育てなければならない。こうした社会的要請に対して，現行理科Ⅰを

充実させた総合理科、ＩＡを付した科目等を設置した。

Ⅲ　科学技術の進歩に伴う学際的な内容や考え方等に対する対応

科学技術の進歩に伴って，学際的な内容が，日常の問題として登場してきた。地球環境，生命倫理，テクノロジーや日常生活の中の科学に関する問題，コンピューターの活用などがあり，ＩＡを付した科目でとりあげ，科学的な物の見方や考え方を育てるようにした。

Ⅳ　自ら学ぶ意欲や自ら考え，的確に判断し行動できる主体的，能動的な態度の育成への対応

我が国の理科教育は，ややもすると教師の一方的な知識の伝達に偏り，観察や実験も十分行われず，理科に魅力を感じなくなっているとも言われている。理科の目標を達成するためには，日頃の指導方法等の工夫・改善と先生方の意識の変革が期待される。生徒一人一人の探究心や科学する心を育てるため，観察・実験・探究活動・課題研究の重視が求められる。教師は大変になるが，生徒には魅力あるものになろう。

Ⅴ　コンピューター等の活用

観察・実験や課題研究を支援し，自然の直接経験や自然観察を支援する等のコンピューターの活用法を研究してほしい。検索型，通信型，実験データ処理型，実験計測型等のソフトウェアや周辺機器を駆使して，理科教育に活用したい。生徒の興味を引き出し，履修者を増やして行くことにつなげたいものである。

理科Ⅰ・Ⅱ部会

主題：理科Ⅰ・Ⅱの指導法はいかにあるべきか

助 言 者　一口芳勝（道教委）
運営委員　山田大隆（札藻岩）　池田斌修（有　朋）
　　澤田八郎（北広西）　児玉昌平（札新川）
司 会 者　合田勇太郎（岩養護）　岡　恒一（札　南）
記 録 者　田辺彰宏（札大麻）　澤田八郎（北広西）

〔講演要旨〕

自然保護の立場より見た環境教育（緑の文化史）

専修短大教授　**俵　　浩三氏**

環境教育は，自然環境への望ましい働きかけを伴った教育でなければならない。ただ環境問題は総合的であり，未だ理論的裏づけの不鮮明な事柄も少くないが，学校の周り，地域社会，地球全体が教科書である。従って各自が「足下の自然から地球の環境まで」という気持ちで，環境教育を進めていくことが，今是非必要なのである。

〔研究発表〕

(1)自然を総合的に考える力を養う工夫
（身近な題材と科学史をもとにして）

室蘭東　**水野　雅文**

自然を総合的に考える力を養わせる為，一番知識の積み重ねのある三年生を対象に，２学期，身近な生活の中に科学を見い出す，科学史を通して授業内容の理解を助ける，生徒の意見交流の場を作る，これらの問いかけを授業，レポートを通し３年間行った。結果生徒の好奇心や学習意欲を大いに高め得た。

(2)キタキツネの増加とエキノコックス症

紋別北　**小島　晶夫**

地域性のある教材として本テーマを取り上げ，キツネの増加に人間がかかわっている（生態系のバランスに人間も関与している）ことの認識，エキノコックス症の正しい知識や予防方法の理解をさせ，それをもとに感想文を書かせたりして，環境問題も科学の目で客観的に追求する姿勢も，生徒に養わせる。

(3)アキアカネの渡りの調査を通しての自然観の育成について（理科研究部の活動を通して）

札拓北　**綿路　昌史**

越年ごしに本校近接のトンネウス沼でのトンボの生態を，理科研究部を中心に，時には授業でも展開させている。今年度はアキアカネの渡りについて，移動方向や速度，滞在場所を，翅にマーキングし追跡調査した。結果本校生はもとより，近隣の小中学生，地域住民も協力と同時に，自然観も育って来ている。

(4)北海道開拓の村産業遺跡を利用した産業考古環境教材の編成

札藻岩　**山田　大隆**

理科教育を生徒に興味ある充実したものにする為の教育方法改善研究として，産業考古環境教材の編成を考える。今回は「北海道開拓の村」から，ニシン捕獲，林業（産業鉄道史，林鉄史も含む），養蚕，ハッカ蒸留精製，蒸気，水車機械，澱粉製造の各技術史や農機具発達史を取り入れた，生徒用学習テキストを考えてみる。

物　理　部　会

〔講演要旨〕

金属疲労の基礎と疲労破壊の実例

北海道大学工学部教授　**野口　　徹氏**

材料の破壊形式の１つに疲労破壊がある。疲労破

壊とは，繰返し荷重がかかることにより発生する破壊のことである。最近，航空機や原発の事故などをよく耳にするが，実際こうした破壊事故の80％は疲労破壊によるものと言える。疲労の現象，原因，対策については現在ほとんど既知であるが，にもかかわらずこうした破壊事故がたえないのは，現代科学の問題が，機械の設計を厳密化させ疲労に対して余裕のない構造となつていることに起因している。又設計条件と実際の使用条件の差異も事故の大きな原因となっており，今後さらに設計の厳密化が進む技術分野では，この問題を十分認識していく必要がある。

質問：英国ジェット旅客機の事故、材料と金属疲労の相関について

〔研究発表〕

(1)物理教材に使える「道具・機械の仕組み」
＝物理ＩＡで指導できること＝

倶知安　**佐々木　淳**

２間口校で，受験を度外視した物理とつきあってきた。幾つかのポイントから授業を設計してきたが，中でも「道具・機械の仕組み」の図解は生徒に人気があり，物理に対する興味づけに効果があったと考える。又，図解に用いた中には新指導要領物理ＩＡにつなぐことのできるものもあるのではないかと思う。

(2)コンピューターによる情報教育の取組みと課題
＝新指導要領による物理ＩＢの
学習ソフトの活用について＝

札白石　**吉川　　要**

今年度より本校では校務分掌に情報教育部が設置され，情報処理機器を学習活動や校務に活用するべく，組織的な活動を行っている。新学習指導要領をふまえ，学習活動の中にコンピューターをどう活用するのが効果的かを考えそのいくつかを授業で実践しているが，さまざまな面で大きな成果が期待される。

〔助言〕　理科センター　**橿棒光一氏**

佐々木先生は，物理と技術の結びつきを授業で扱う上での大胆な問題提起をされたと思う。又この視点は物理ＩＡのみならず物理ＩＢ，IIへもいかすことができると考える。これからの物理教育には，こうした生の現象を教材化していくことが今後さらに望まれるのではないか。

吉川先生はグローバルな視野から積極的にコンピューターに取組む姿勢が感じられた。

これからの物理教育を方向づける先駆的な発言だったと思う。各学校でのこうした取組みを援助できるような環境づくりを，理科センターとしては進めていきたい。

化　学　部　会

〔講演要旨〕

粘土を用いて分子の右と左を見分ける

北大理学部教授　**山岸　晧彦氏**

光学活性の起源を研究する上で粘土は興味深い物質である。粘土への〔$Fe(phen)_3]^{2+}$錯体の吸着から得た興味ある事実をもとに研究を進め，光学活性な錯体を吸着させた粘土を用いた種々の物質の光学分割を行なった。現在この性質をもとに粘土の生命の発生への関与について研究を進めている。

誰でも目にする事の中に疑問を持ち自分の研究に結びつけることが研究の原点であり，その意味で研究と教育は関連が深い。

〈質疑〉札幌平岸　笠岡

・平成６年度からの課題研究では高校生にどの程度のことをさせたらよいか。

―考えることが楽しいことであることを学べる取り組みが必要ではないか。

〔研究発表〕

(1)ケイ素の化学

旭川東栄　**玉利　和弘**

現代社会の中でケイ素は新素材等多くの場面で使われている。生徒と同じ疑問点や発想をもとに，ケイ素が含まれる種々の物質の性質に関する実験やガラスの製法に関する実験方法の改善を企画した。

１つの元素に焦点を絞って流れを追い，多くの化学反応に視野を広げていくことで生徒が少しずつ興味を持って取り組んでいけるよう心がけている。

〈質疑〉深川東商　萬木

・実験時数はどれぐらいか。

―授業で４時間ぐらいと放課後に自由参加形式で実施している。

(2)如何にして湖陵化学は全道１位なりし乎

釧路湖陵　**安井　陽二**

３年時２単位の化学の授業を通して受験指導に取り組んでみた。自作のプリント「安井の化学」を１年間続けて毎時間配布し，生徒とともに学びまた励ましたり，テスト形式の直前講座を通して生徒の危機感や自主性を喚起したことが実力発揮につながった。受験化学を楽しみ面白がりながら取り組む中で学ぶことの喜びを知る生徒が育ちつつある。

〔質疑〕札幌旭丘　阿部
・プリントは他教師も利用しているか。
—授業では使用していないが配布したりお互い情報交換は密にしている。
・3年時に実験は何時間実施しているか。
—3年時は行なっていないが2年時5単位の中で充実した実験を行なっている。

〔助言〕　理科センター　鈴木　哲氏
1．最適条件を決定する作業も生徒に考えさせ，主体的な活動を促してはどうか。
2．受験指導は化学教師のチームワークが大切。この熱意で実験開発にも積極的に取り組んでいただきたい。

生　物　部　会

札幌月寒高校図書室　13：00〜16：00
助言者
文部省初等中等教育局主任視学官　山極　隆氏
北海道立理科センター事業課長　白井　馨氏
司会者
（札篠路）斉藤　章，（穂別）矢部　和夫

〔研究主題〕
これからの理科教育はどうあるべきか。
1．北海道の新高等学校学習指導要領への取り組みの状況を報告し「生徒の実態に即した望ましいカリキュラムの編成・実施の在り方」について研究し協議する。
2．課程別・規模別に望ましい理科（生物）カリキュラムの編成実施の在り方・課題学習・探究学習・コンピューターを利用した指導・身近な環境を利用した指導法等について提言し協議する。
提言1．生徒の実態に即した理科・生物教育課程の在り方について　（札白石　横山武彦）
提言2．生物における実験材料をどの様に扱うかウニに代わる発生実験教材開発　（札稲北　後藤寿樹）
提言3．免疫を中心とした体の調節の教材化　（札新川　大川　徹）
提言4．単位課程における生物カリキュラムの編成　（有朋　片岡　辰三）
提言5．自然の中の人間を考慮した学習指導流域を単位として考える　（札星園　守屋　開）

以上5名の先生から，教育課程や教材開発・実験，実習の提言がなされ，その後質疑が行われた。質疑の主なものは，単位制高校のカリキュラムや生徒の実態についてのものとウニに代わるヒトデの発生教材のものが多かった。さらに助言者の白井先生からは，各5本の提言についての寸評がなされ，現段階では，各校ともまだ準備段階である教育課程について，再度，新指導要領解説に目を通し，各校で情報交換を密にし，研修・研究会に積極的に参加することが必要なことが示唆された。実験，実習，教材開発等が新指導要領の総合理科，ＩＡ，ＩＢ，IIのどこでそれが生かされるかを検討してみることや，コンピューターも精力的に研修することも大切との助言があった。さらに山極先生からは，これからの理科教育として，1．すべての学習者に高い期待と目標を設定すること。2．質の高い理科教育を目指すこと。3．互いに切磋琢磨する機会を持たせること。4．教師の指導力，使命感，情熱，愛情，又，生物教育についての現職研修として，1．観察・実験技能，課題研究の充実。2．新しい学力観。3．コンピューター技能の習得と活用。4．環境教育と野外観察。についての話があり，今後の理科教育に対する指針が提示された。

全道各地から多くの生物教師が集まり大変有意義な分科会であったと思われる。

地　学　部　会

〔講演要旨〕
火山から地球を学ぶ
北海道大学理学部有珠火山観測所長
岡田　弘氏

火山のうち噴火量が圧倒的に多いのは海嶺型であるが，社会的影響が大きいのは島弧型で，日本はインドネシアに次ぎ活動がさかんである。噴火による死傷者は他の災害より少ないが，活動が長期にわたりその推移を十分に把握できない現状では，社会的影響が非常に大きい災害といえる。地球の内部はよくわからないため完全ではないが，噴火予知可能な場合があるという大森房吉の提唱のもと，観測避難体制が整い，今まで10万人以上が死なずにすんでいる。火山災害の3大要因は津波，火砕流，泥流の広範囲にひろがるものである。また，歴史上初めての噴火による災害が最も多く，前兆の地震がおこってから1日以内に噴火する場合が半分をしめる。よって，緊急避難措置が重要であるが，噴火の終息の予測がつかず困難な面もある。火山現象を特殊なものではなく科学としてとらえ，何ができ何ができないかの現状をしっかり把握し数えていくことが大切である。

〔質疑応答〕

三上（帯柏葉）火砕流の速度は100km/sか？

岡田　100m/sのまちがい。

高田（札新川）　火山と水とのかねあいは？

岡田　マグマに３％の水分があると爆発する。微動も水との相互作用でおき，水をぬくと噴火をおさえられる。

高田（札新川）　警報改善の可能性は？

岡田　予知連絡会の対応ではダメ。自治体の組織的な取組み体制が必要。

高橋（助言者）　地学ＩＡでは火山災害のような身近かな素材で学習させたい。大学の先生の示唆をうけながら，主体的創造的人間の育成に，課題研究を実施してもらいたい。

〔研究発表〕

地学におけるパソコンの利用について

有朋　**村中　淑秀**

村中　プログラムのソフトを組み，授業の導入などで興味づけをするのに用いたものをまとめた。

高橋　依存型の生徒が多い中，問題を主体的に解決する姿勢を身につけさせるコンピューターが使えればと考える。どこでどのように使用すると効果的かを意見交換し，授業で実践していく勉強会があればと思う。

藤田（副会長）　新カリでは是非地学ＩＡを選択し，実践例を出しあってもらいたい。クラブをさかんにして，身の回りの地学事象を共同で研究，発表し，共通の財産にしたい。

（参加者26名）

保健体育部会

〔講演要旨〕

全日本の女子柔道を指導して

電気通信大学教授　**柳澤　　久氏**

・女子柔道の歴史と競技化

日本女子柔道が世界と比較して，極めて競技として立ち遅れていた昭和40年後半～50年代に，世界に負けない日本女子柔道とするために大変苦慮し，特にウェートトレーニングによる体力の強化，世界に目を向ける精神面の強化を指導。昭和63年のソウル五輪に於いて，出場五名全員の選手の入賞を果たす。

・女子選手指導の問題点と指導者の条件

自主性に乏しく，依存性が強い特性がある女子には，トレーニングの目的を明確にし，きめ細かくやってみせ，期待感をもって平等に指導する。指導者は，選手のやる気や選手の持っている能力を引き出すことが大切であり，夢と目標を持たせて指導する。

〔研究発表〕

(1)生涯体育・スポーツに向けての剣道指導のあり方
―やらされる剣道からすすんでやる剣道―

札幌月寒　**松井　則之**

将来，一人でも多くの生徒が剣道を生涯スポーツとして取りくむことを期待して，意識調査を実施し，ゆとりある学習計画を立てて取り組む等の指導上の改善や，試合を多くして級審査会や学年別校内剣道大会を設ける等，実践の中から剣道の楽しさを味わわせて，親しまれる剣道授業を展開した。授業を通して技術の向上と学校の活動に集中する姿勢や努力目標に向かって，進んで学習する生徒として評価を得た。

(2)選択制を取り入れた年間指導計画について

恵庭南　**戸澤　久夫**

生涯スポーツを主体的に実践し，社会性や個性豊かな人間の育成を選択授業のねらいとして取り組み，領域的選択と種目選択を取り入れた年間指導計画を作成し，授業を展開した。指導計画作成にあたり，生徒全員に対して意識調査と希望調査を実施して種目の決定を行い，また３年次に男女混合チームの編成，生徒による学習計画や班の学習ノート作成等の主体的活動の活性化を基本的な考え方としている。今後，新学習指導要領の主旨を生かし，選択制の取り組みについて深く検討し，綿密な計画を進めて行きたい。

〔助言〕

※研究発表１に対して

スポーツ保健体育課　**鳥居大路氏**

年間計画の内容に工夫やきめ細かさがあって，その実践成果も高い。武道の良さを知らせる工夫は生涯スポーツとして，剣道に限らず，他のスポーツにつながるものと思う。

※研究発表２に対して

スポーツ保健体育課　**粥川氏**

指導計画作成にあたり，各地域に合った意識や希望調査をすることが大切である。特にクラス編成・各種目の人数・男女の共修・種目の取り方や配当時間等，年間計画を決める際に，学校の中の総合的なものを押さえた上で，指導して行く必要がある。

養　護　部　会

〔研究発表〕

保健室における教育相談とその問題点について

枝幸　十川　光穂

「２年生の見学旅行をきっかけに，体調不良を訴え登校拒否となったＡ君とのかかわり」という事例をもとに，実践報告があった。

Ａ君は学習成績は優秀であったが，友人が一人も居なく一人で行動している事が多かった。体調不良（発熱）をきっかけに，被害妄想が現れ学校を12日間休む。学校側では職員間で協議し合い，専門医療機関受診を勧めた。

医療機関の指導が本人及び家族に徹底せず，継続医療とはならなかったが，長期休暇中の中学時代の友人との親交により，徐々に立ち直ってきた。その後，以前程，保健室にも来室しなくなったが，担任と指導方針を「遠くから見ていこう」と立て，気になりながらも直接関わるということはしないでいた。

12月には，大学進学も決定し落ち着いて経過している。養護教諭は，学校内は勿論のこと学校外（医療機関・カウンセラー・他校の養教等）とも連携をとり，一人で抱え込まぬよう心がけ，対応した事例である。

〔講演要旨〕

養護教諭の専門性と健康教育

東京都立日比谷高等学校　養護教諭

鎌田　尚子氏

養護教諭の職務や学校保健，健康教育に関わる研究で国際的にも活躍されている鎌田先生により，現場での実践者として，また研究者として，生涯教育の視点から「健康教育の専門職である養護教諭の役割」についてお話いただいた。その役割とは

①子どもに生涯にわたる健康を開発していく意欲と，自他共に必要な知識と学習の仕方，健康行動を採択し，実践技術を発達させる。

②学校保健（保健管理・健康教育）に，子どもの積極的・活動的な参加を促進する。

③ライフステージにおける全人的発達を援助し，自身および他者のケアも出来る自立した人格形成を目指す健康教育をする。

④闘病・治療・リハビリ・予防・健康増進・競技や競争の各レベルにおける健康教育と健康増進的ケアを進める中で，自立の促進を支援する。

⑤子どもが自らの健康を構築出来るよう情報のパッチワークと健康の骨組み作りを支援する。

⑥新しい健康教育の研修に務め，医学・健康科学の新しい知見を取り入れる。

⑦子どもから学び，子どもと共に考える。そのために，沢山の情報ファイルを用意し，受け入れられる幅の広さと温かい人間性，ニーズや知的満足にこたえられる専門性と専門的教養（魅力のある大人）の向上に努める。『人生の様々なドラマを演じられる役者・エンタティナー』でありたい。

芸　術　部　会

全　体　部　会

〔講演要旨〕

書を書く

中野　北溟氏

私は北海道の西部，周囲13km程の一握りくらいの島“焼尻島”で生まれた。「北溟」というのは，北の海（北海）という意味である。島で生まれ海で育った為，そこでの体験が事ある毎に私の心を揺り動かす。いわば，私の“原風景”となっている。島のいろいろな景観，島に住む人たちの心（連帯感），島の生活というものが心の隅に潜んでいる気がする。波の音を聞きながら朝起き，夜寝る。そういったことから“海”に関する制作が非常に多くなっている。

“書”の場合，素材となるのは“言葉”である。“言葉”がなければ“書”にならない。何か遠くに物があり，その物に思いを馳せながら，その物の中に行き着こうとする。「もう一回その所で，もう一度自分を確かめて見たい」という，自省を繰り返しながら書き上げていく。そうした作業を通し，自分の体の中を通り抜け，吹き抜けてゆく力が，もう一度自分の所に帰ってくる。そして，それが本当に意識の中で確かめることが出来るのかどうか。あるいは，無意識の中で思いの繰り返し，筆の繰り返しがなされているのではないかと考えることが多い。

私の書は，ほのぼのとした，何かロマンのあるものとして言われることがあるが，つまりは，“島”という一つのある限られた空間を，なおも拡大し，揺さぶろうとする“海の音”であろう。また，ありたいと考えている。底の方から沸き上がってくる，いろいろなものが複合され一つとなった“海鳴り”が，私の体の中にまだ残っているのである。

書の条件の第一は“言葉（記号）を得る”ということである。言葉と自分が一つになり，自分の体に溶け込む言葉。それを得るには大変な時間の浪費が必要であるが，それは自分が言葉に目覚め，あるいは自分自身が目覚める大切な時間・空間である。言葉の重みに振り回されたり，いろんな不安がつきまとうが，それが濾過される中でようやく一つの“言

葉”を発見し，消化に向かっていく。しかし，いざ書くとなると，技術の上で古くさい，つまらないものに振り回され，制約されることがある。しかし，それをなげずに最後までなんとかしてゆくことによって，再び言葉との“対話”がなされ，本当に自分のものとはなってゆくのである。つまりは，言葉の持つ力・聴覚的（音感的）な響き・文字を作り上げる運動感覚といったものが，自分と一つになっているかどうかが，大切なのである。

一旦書く時には、無心で，何も考えず，時には目をつぶって書く。そうした中から，筆の押引・転捻などといった様々な〈対極〉が生まれ，そうした時間を重ねながら表現へと導いていっている。

また，これは“子どもにでも出来る”ことである。我々の仕事は，創造性豊かな人間を作ることであり，そうしたことを知っていただき，実践を通して学んでいただきたいと思っている。

〔研究発表〕

音楽分科会

音楽部会は，清里高等学校石若拓哉先生の，「小規模校におけるクラス単位の音楽授業はいかにあるべきか～学習意欲を高める合唱指導を中心に～」というテーマによって，研究発表が，行われました。

芸術は，音楽のみ。しかも３ケ年必修（６単位)。低学年・低得点で，高校に入学，今までにリーダーとして，集団を引っ張った経験を持つことなく，何事にも『自信のない』生徒達。彼らを，クラス単位の音楽の中で，合唱という授業を通して，少しずつ自信をつけさせ，ついては，クラス経営・学校運営の中まで生かしている内容の報告と，過去３年間の合唱コンクールのビデオ鑑賞。

その情熱的な石若先生の指導と，高度で難しい曲を，堂々と，伸びやかに，自分達の音楽を表現している生徒達の姿に，参加者全員感動を覚えました。

次に，その発表に基づいて，各地域・様々な高校の授業の中味や実態・生徒の状態・合唱コンクール状況等について述べられ，いくつかの課題

- リーダーの育て方（とくに指揮者やパートリーダー）
- 音とりを含めて，パート練習のあり方
- 評価の方法
- コンクール・授業以外での行事への参加状況（とくに校歌について）等

の話し合いが，さかんに行われ，各先生達の，日頃の苦労や音楽の指導に対する熱意が感じられました。

最後に，これからの芸術教育は，生徒主体に，課題学習を深めて，それぞれの到達目標に，どうせまっていくかを考えていかなければならない，と言う田川先生の助言でまとめられ，終了しました。

美術分科会

美術部会では，白糠高校の高橋聡先生が「美術ノートを利用した授業の一考察」と題して研究発表された。生徒の意欲を喚起し，美術の基礎的な力と，学ぶ態度を育むことをねらいに美術ノートと称するＢ４版冊子を印刷業者に依頼して制作，１年生に授業で使用させた実践報告である。ノートは使用のねらいや評価の仕方がまず解説され，その後授業毎にページが分かれ各々に目標とポイント，さらに具体的な実習や鑑賞の指示事項など学習項目が一目でわかるようになっている。さらに毎時間の反省評価と感想の記入欄がもうけられ，目標への到達度が自分なりに把握できるよう工夫がなされており，教師の励ましの記入も忘れずにされる。このノートの使用によって，目標と評価が明確かつ系統的でわかりやすい授業の実践がなされて着実に生徒の基礎力を引き上げているであろうことは先生の言を待たずとも会場に展示紹介された生徒の素晴らしいデザイン作品の数々からも十分うかがい知れ，参加者一同，先生の平素の授業研究に対する努力と熱意に敬服した次第である。

質疑応答や意見交換の中では，新学習指導要領にも取り扱われるコンピューターグラフィクス（ＣＧ）の授業研究の経過が情報交換としてなされた。高橋先生も研究途中でありイメージを試行錯誤する面白さは芸術教育本来のものとして今後の各校での設備充実および研究推進が期待・注目される。又，立体造形の授業についての質問から，いかに生徒の創造工夫する力を高め育てるかという，芸術科には基本的かつ最重要な問題がなげかけられ，実習時間や教材についての十分な研究を前提として生徒の特性をより伸長させることに配慮すべきであろうとの一応の見解に達した。

最後に助言の二先生より高橋先生の研究について――①最近にない高レベルの研究内容②生徒の実態把握が的確③授業のポイントを的確に把握④ア，作品に記名させずに授業内評価　イ，ノートでの毎時間の自己評価　ウ，先輩作品を参考としてノートに掲載など，柔軟な発想は貴重⑤次の課題への生徒の意欲喚起は見事⑥ノート活用は，学ぶ態度を育て基礎力を定着させる上で１年次が最適⑦生徒の小中学校での教材体験の要分析⑧新カリキュラムの研究（ＣＧ）に進取の精神を見る――との高い評価があ

った。
総じて基礎・基本の重要性があらためて確認できた美術部会であった。

書道分科会

本年度は，芦別高校峰岡純先生によって「蘭亭序の展開」と題したレポートが発表された。
◎同一教材の多角的・継続的な指導
◎“格づけ”による個人内評価
を中心に，生徒自身が，変化してゆく自己を確認でき，さらに自己発展をさせてゆけることを目指した指導としての一実践が報告される。同一教材（蘭亭序）を3年間継続的に学習し，各年度毎に以前の作品と比較することにより達成感を味わうことができ，また他生徒もその上達を認めることができるように工夫されている。「教材が細分化されて読み切り小説のようになるなかで，大河小説のように一つの教材を扱いたい」「また筆でも持ってみようか」という気持ちになることを期待した実践の例であった。
発表に基づき，松原先生（函館東高校）の司会により協議がなされた。
◎評価法について
◎教材の設定・取扱いについて
を中心として，添削指導・墨の扱い方・教材費の徴収について等，参加各校の実態をふまえて意見の交換がなされる。特に評価法においては，“形成的評価”のあり方についての討議がなされ，また先生による“自己評価”の重要性とそのアプローチの方法等について協議される。さらにそれらとの関連において同一教材の継続的学習のメリット・デメリットなども意見が交わされた。
終会にあたり
◎単に技術教育とならず，興味・関心・態度といったものを大切にし，評価においても人間的教育を主眼として“情意の評価”というものを重視してゆくことの必要性（本間先生・道立研究所）
◎生徒の実態・父母の要求・指導者の求めるもの等を広く配慮した教材設定・取扱いにより，父母の理解を得，生徒に充実感を与えることの重要性
◎生徒が学校を楽しく思い，意欲的に学習すること，そして自己を教育してゆく能力を育成することの必要性（田口先生・北見仁頃高校）
等についての助言をもってまとめとされた。
61名の参加により，多彩な意見交換・実態報告のされた分科会であった。

英語部会

〔講演要旨〕
国際的な英語教育に向けて
東京大学助教授　**岡　秀夫氏**
英語教育の目指すところは学習指導要領に示されている通りである。日本人の英語の問題点は断片的な知識はあってもコミュニケーションを行うまでの総合的な力を備えていない点である。この原因は訳読中心の教授法にある。英語教育の究極の目標をバイリンガリズムとするなら，英語教育への応用という観点からこの内容を考察せねばならない。最近の国際化社会の中ではアイデンティティーとの関連で言語と文化的価値についても考察が必要である。バイリンガル教育のあり方については北米において争点となっている。特に少数民族については失敗の場合重大な結果をもたらす可能性もあるからである。今後の英語教育の方向を考える時クラッシェンの言語習得理論が参考となるであろう。コミュニケーション能力育成の道すじには次の三つが考えられる。第一にクラッシェンのインプット仮説，第二に私の提唱する学習→十分なインプット→習得という考え，第三に学習に基礎をおき習得の要素を取り入れた学習と習得の融合という考え方である。以上のガイドラインを参考にして各先生方がプロとしての指導技術を磨き，国際化に向けて英語が出来るだけでなく英語を使って何かが出来るような人材を育てる教育を行うよう期待する。

〔公開授業〕
Communicativeな授業をめざして
札幌東　**森田　裕**
石狩局ＡＥＴ　**M.Singleton**
進学指導には不利と思われがちなＴ－Ｔを，動機づけ・運用能力を伸ばすための手段としてとらえ，ＡＥＴ・留学生等も効果的に，連携よく活用し，日本人学生が不得手とするグループディスカッション・発表を，時にはユーモアやゲーム的要素も含め，楽しく参加できる雰囲気の授業が行われた。ＡＥＴとのＴ－Ｔのあり方，新カリにむけて等の様々な観点から，我々が学び生かすべき点の多い授業であった。

〔研究発表〕
1.オーラルコミュニケーション（O.C.）を重視した授業の可能性と限界
釧路星園　**吉田　茂**
諸外国では，語学が生きるために必要な場合が多

く，日本人の第２外国語とは意識の違いがある。また，語学教育の現状を比較しても，我々は学級規模，授業・入試形態に大きな問題を抱えている。O.C.を充実させるためには入試形態・教材は是非改善されたい。

2.不定詞の指導における一考察

中標津　**松本　　潤**

文法指導に困難を伴う実態の中では，意識的な学習をさせることが必要であり，特に不定詞の指導においては，時間的な観念を段階的に教えていくことが肝要である。また，この文法指導をもとにコミュニケーション能力（out put）を促し，伸長するドリル，ロールプレイ等をＴ－Ｔに応用し定着を図るのも可能で効果的である。

家　庭　部　会

〔記録〕

1.期日　平成４年１月10日㈮

2.場所　札幌市市民会館２Ｆ会議室

3.主題　男女必修の家庭科の実施にむけて

○開会式（９時30分～９時40分）

野元哲浩高教研家庭部会長から家庭科は人間として自立するために最も基礎基本となる教科と強調し挨拶され，また斎木政子道教委指導主事は平成６年度男女必修実施に向けて教育研究内容等の指定校について報告を含めた挨拶が述べられた。

○総会（９時40分～10時00分）

議長（江別高武藤教諭）の進行により平成２年度事業決算報告ならびに平成３年度事業計画・予算は事務局の提案どおり承認。なお平成４年１月９日12時30分～13時20分に開催した全道地区支部役員会の報告は石狩支部部長校より各支部の日頃の活動状況等について行われた。

○講演（10時00分～12時30分）

「高齢者問題と家庭科教育」の演題で，講師は東京家政大学教授樋口恵子先生。内容は，高齢化社会と家族・家族の変化，高齢期における女と男，かわる将来設計，かわる家族と地域社会，高齢化社会におけるであいの教育について述べられ更に高齢化社会のキー(Key)教科として家庭科教育の役割や重要性等々身近なことを題材にお話された。

また，部会長より感謝の意をこめ札幌市を紹介しつつ，謝辞が述べられた。

○休憩・昼食（12時30分～13時10分）

○研究発表・討議

テーマ「家庭科における情報教育のあり方―情報処理教育推進小委員会の中間まとめ―」

発表者　美瑛高等学校教諭菅野美樹

小委員会の設置主旨と発表内容は次のとおり。

昭和62年５月校長協会家庭部会の規約に基づく家庭科推進委員会の第二小委員会は家庭科における情報処理教育についての構想とその対策，教材開発等を行う活動の主旨で設置され，今回の学習指導要領改定の趣旨をふまえ次のとおり中間まとめの発表を行った。家庭科教育における情報教育の位置づけ，家庭一般におけるパソコンを利用した指導展開例，新科目における「家庭生活と情報」領域の題材展開例，職業学科における「家庭情報処理」の年間指導計画について詳細な資料で報告された。また，何故「家庭科」で情報教育なのか，ＣＩＡが適切なものは何か，授業時間の効率化との関わりはどうか，生徒の反応はどうか等々意欲的に討議が行われた。最後に道教委指導主事斎木政子先生からこの発表の展開例を参考に教師自身の教材観を加え一層のくふうと研修を期待したいと助言された。

○閉会式（15時30分～15時40分）

副部長野幌高校長，岡田珠子先生から閉会の挨拶をいただき終了。

農　業　部　会

〔研究発表〕

「課題研究」の実践をとおして

標茶　**小野寺　満**

高等学校学習指導要領改訂に伴う教育課程基準の四項目をとらえると同時に，職業に関する各教科，科目の改善の基本方針，特に「応用性ある知識や技術を確実に身につけそれを将来活用することのできる能力を育てる観点から，実験実習の実際的，体験的な学習の充実を図るとともに，問題解決能力や創造性を育成するため課題解決型の学習を一層重要視し，各教科に新しい科目として「課題研究」を設ける。」を確認し，時代の進展に対応する農業教育を進めるにあたり，平成３年度から科目「課題研究」の実践に取り組んできた。

この現在進行形の状況を三つの観点より説明し方向性を探る。

観点1.「課題研究」に取組むための組織体制

2.「課題研究」に取組む際の生徒の実態調査

3.生徒の課題に対する計画と実践

実践1.教育過程編成の組織体制

2.「課題研究」の指導計画

3.学習課題の設定と指導体制

4.実施記録と評価

5.実践の成果と課題

結果1.興味・関心・進路からの課題設定
2.「課題研究」の実践と生徒の変容
3.地域教育力の活用
4.学科と「教科・科目」の課題検討
5.学校五日制における実験農場の維持管理

〔助言〕

留寿都高等学校長　**肥田野　光之氏**

「課題研究」についての再確認
第1点　教師の意識改革
第2点　教科・科目の体系化
第3点　履修方法の総合検討（単位，学年，課題設定，指導法等々）
第4点実践上の留意
ア事前指導の徹底
イ課題設定……生徒の実態把握
ウ教師指導力…研修の充実

〔助言〕

北海道教育庁生涯学習部学校教育指導班
指導主事　**井川　博巳氏**

第1点　「課題研究」設定の背景
第2点　履修単位，学年等
第3点　「総合実習」と「課題研究」の整合性（相違点）
ア，教科目標の重点
イ，学習内容の選択性
ウ，学習方法
エ，履修学年
オ，評価観点

工　業　部　会

〔講演要旨〕

国際化と職業教育

北海道いか釣漁業協会会長理事
北海道産業教育審議会副会長　**山田　正氏**

国際性ということで日本を考えてみると，相当に遅れているのを感じる。例えば，日ソの漁業交渉の経験から，日本人は情けに訴える交渉のスタンスが多いが，ソ連は科学データに基づいた理論交渉をしてくるし，日本のように決して途中で妥協することはしない。また，経済の面，政治の面，宗教の面，等々から眺めてみても，日本は世界的な常識から若干離れているように感じられ，これらのことが日本の国際化を遅らせている原因のように思える。従ってこの溝を埋めることがまず大切である。

工業教育を国際化と結び付けて考えたとき，一般常識の上に立った，創造性を豊かにする教育が大切である。そしてこれは，実験実習を伴って身につくことが多い。さらに，精神的なゆとりを持ち，人を思いやる心を育てることも大切である。

日本の情報産業は世界の先端にあるが，これからは国際的なニーズに答えられる教育をしていかなければならない。その一つに，廃棄物の処理技術がある。無駄を省いて廃棄物を出さない技術，つまり地球の環境を保持するための環境の科学が，これからの工業教育の中で大きなウエイトを占めることになる。

〔研究発表〕

情報化社会における工業教育のかかわり

旭川工業　**清水　次幸**

情報化社会とは何か。産業化社会後の情報化社会の到来。何を通して子供達の目を光らせるかという疑問から，写真を通じて子供達に接してみた。昨年の工高祭で，生徒と共にタイル（1m×90cm）に写真を焼き付ける試みを行った。この技術が大きな成果を産み企業が二人の生徒の就職を決め，実用新案申請のきっかけを作った。

課題実習の本校の取り組みについて

名寄工業　**高橋　篤**

3年間のまとめである総合実習を，次の5つのテーマで行った。①バッテリーカーの制作，②ゴーカートの制作，③トスバッティングの制作，④コンピュータを通した制御対象の制作，⑤ポケコンインターフェースの制作。これらの実習を通して生徒間の協力体制と技術者としての総合的な素質をたかめることができた。

機械実習をとおしたボランティア活動

江差南　**島貫　勇次**

校舎改築を終え，完成したグランドにベンチを作って欲しいと事務からの依頼を受け，教師集団で試作を行った。制作に当たる中で，溶接実習を含む総合実習へと発展した。作品の観光地への寄贈が，新聞に報道され，多くの住民からの反応が生徒個々の満足感，成就感と，創造する喜びや助け合う事への必要性を生徒に体験させることができた。

商　業　部　会

全　体　部　会

〔講演要旨〕

これからの商業教育

全国商業高等学校長協会理事長
大橋　信定氏

「これからの商業教育」は，新学習指導要領が基本となるので，その背景について述べる。新学習指導要領は、臨教審の諸答申・理産審答申・教課審答申にもとづき作成され，その基本は，①心豊かな人間の育成，②基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実，③自己教育力の育成，④文化と伝統の尊重と国際理解の推進，となっています。

具体的には，総則第１款の１に示されている①自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに，②基礎的・基本的な内容の指導を徹底し，個性を生かす教育の充実に努めなければならない，とし，商業の教科の目標として「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を修得させ，商業の意義や役割を理解させるとともに，経営活動を主体的，合理的に行い，経済社会の発展に寄与する能力と態度を育てる」と示された。

1.問題解決力・創造性の育成を図る教育

従来，ともすれば検定合格を目指すため，詰め込み的指導が行われ，簿記２級に合格しても実践で記帳ができないなど，テクニックのみを覚え込ませるような指導であれば問題があったのではなかろうか。

「課題研究」が新設されたが，内容の４に「職業資格の取得」があるが，資格取得のための補修授業として利用するのであれば目的にそわない，と言える。生徒が自ら課題を設定し，自分で解決する力をつけさせるための指導法を工夫することが大切である。

2.時代の進展に対応した専門教育

(1)標準的学科として５学科が示されたが各学校が，社会の変化に対応し，生徒の実態や地域の特色を生かした教育を推進するのであれば，学校がそれぞれ違った特色を持つことが必要である。

(2)専門性を深化させるには，専門科目の単位数を大幅に増やすことが必要であるが，どの程度にすべきかは検討を要する。

(3)資格取得に関しては，高度な資格を取得させるとともに，幅広い資格を取得させることも大切である。

3.人間関係能力の育成を図る教育

企業で求めている人材は，対人能力・突発的なことに対応できる能力である。「流通経済」の企業の活動とコミュニケーション，「英語実務」の外国人とのコミュニケーション，「経営」の組織と人間，などがあげられる。

4.進学も出来る商業教育

大学との連携を強化し，特別推薦枠や代替科目を増やすように働きかけているが，高校としては，資格取得に対応するカリキュラムをつくることと，特に，英語・国語の力をつけさせるような配慮が必要である。

5.中学・企業・大学へのＰＲ特に，中学校の先生が商業高校の内容を知らないので，入学後の生徒の状況を知らせたり，先生に対するコンピュータ指導の実施，授業参観などを実施し，ＰＲする必要がある。

6.将来の課題

商業教育を発展させるためには，商業高校５年制・専攻科・商業高等専門学校・産業大学などが考えられるが，いずれもこれから十分に検討する必要がある。

これからの商業教育は，発想の転換が求められている。教員の意識改革が成功のカギになるであろう。

第１分科会　―教育課程―

〔研究発表〕

社会の変化に対応した商業教育を求めて
―小学科に向けた教育課程のあり方―

室蘭商業　**舟山栄治**

今日における社会の変化は，職業教育にも大きな影響を与え，学校学科の再編成など，多様化・個性化の方向へのさまざまな試みとして表れている。本校では，数年前より新しい商業教育を求め，教育課程を抜本的に改訂し，実践してきた。今後のあり方として，現行教育課程の問題点を正し，地域社会の実情や生徒の実態に柔軟に対応した特色ある学校づくりが，極めて重要である。

〔質疑〕

（啓北商）1.進学への対応はどう考えているか。2.小学科での学科不適応の手立ては。3.小学科でのワープロの指導は，どの科目で実施するのか。4.検定後の授業展開はどう行っているのか。

（奈井江商）教育課程案で科目名を新旧まぜている理由

（釧路商）履修をしたが修得できない場合はどう考えているのか。

（芦別総合技術）1.３年次で３科目の選択を設けている理由。2.教育課程案は現在の教員スタッフを念頭において考えられたのか。

〔助言〕　渡辺

商業科のみならず普通科の先生方も一緒になって学校全体で取り組み大変素晴らしいことです。より高度な職業資格取得が生徒にとっては大きな財産であります。地域の中の学校として生徒が選択をする魅力ある学校を形成してほしい。生徒の実態をきちんととらえ，個性の伸長を計っていくことが大切です。

〔助言〕　柴田

高い資格取得は素晴らしいが，他の勉強ができなくなることがあるので，知・徳・体と調和のとれた人間を育成することも考えておく必要がある。暗記だけでなく論理的な思考を育成すること。問題解決能力，「考える力」を育成することが大切であります。

〔協議題〕

情報処理に関する学科転換及び課題研究の取り組みについて

士別商業　宮田　修

地域に根ざした教育を推進するため，情報処理に関する学科への転換を申請し，「課題研究」は平成4年度から実施する。このため全校あげて研修体制を強化し活力ある学校づくりを目指している。

課題研究　―ねらい―

・自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成

〔助言〕

問題解決能力の育成が大切である。これは，自己教育力の育成でもある。

課題研究は，学び方を教えることが大切であり，そのためにも我々教員が積極的に「課題研究」に取り組んでみることが必要であります。

第2分科会

情報処理機器を活用した総合実践

江差南　吉本　満

平成3年度から本校は，従来の商業科を廃し，新たに事務情報科に学科転換したのを契機として，本校における商業教育の見直しを行うことにした。改善の重点として，実際的・体験的な学習を基本とする「総合実践」を商業教育の中核科目として位置づけ，より臨場感があり，活力あふれる学習の展開ができる実践学習を志向し，検討を重ねてきた。

具体的な取組みとしては，他の学校の見学などの校外研修をはじめとして，校内的には，8名の教員が2名ずつ，4つの分野について研修している最中である。研修の成果として，1年生用の総合実践のシステムは95%完成し，情報処理機器を活用した総合実践として，来年度から実施する計画である。

1年生の総合実践では，学習の段階を3段階に分け，それぞれの段階で情報処理機器を活用する。特に第1段階では，情報処理機器を利用した総合実践の取引の流れや，コンピュータの操作をしっかり理解させ，第2段階，第3段階のより複雑な学習に結びつけていく。

おわりに，この総合実践を来年度より実施し，その成果や問題点を，後日，報告するとともに，さらに，このシステムをよりよいものにするために，研修を深めてきたい。

〔質疑〕

（深川東）今まで，このような施設，設備が入った学校はなかったのですが，どのような経緯で決定したのですか。

（吉本）各担当者から要望をだしてもらい決定しました。

（深川東）特色ある学科は色々あるが，事務情報科にした理由をお聞かせ下さい。

（吉本）地域や生徒の実態を考慮して事務情報科に転換しました。

（助言者・岸下）情報処理機器を活用した総合実践は，商業科目の導入ということで，大切な科目となるのではないでしょうか。さらに，2年間未知の分野にはいるのだろうと思いますが，頑張って下さい。

（助言者・小山）これからは，それぞれの学校で，それぞれの地域・学校の実態にあった特色をはっきりと打ち出したものが望まれてくるのだと思います。江差南高独自の総合実践となるよう頑張って下さい。

〔協議題〕

表計算ソフトの利用状況とその内容について

旭川商業　宮本修一

最近の市販ソフトの充実ぶりはめざましい。

本校でも，今年度からアシストシリーズのひとつである表計算ソフトとワープロソフトを授業に採り入れ，実習を重ねてきた。そうした中で，いくつかの問題点や来年度以降への課題が出てきた。

(1)評価法の確立

(2)どの様な機能まで指導の対象としていくのか。

第3分科会　―進路指導―

〔研究発表〕

職業観・勤労観を育てる生きた商業教育
―『苫商一日デパート』を中心として―

苫前商業　多田　直治・千葉　茂・島下　拡也

入学から卒業までの系統的な進路指導を目指し「教育相談カード」をもとに全生徒に対し全教員が面談にあたることにより，生徒理解を深める実践を行っている。それにより「わかる喜びを体験させる」授業への取り組み，また商業教育の集大成としての「苫商一日デパート」の充実により単なる体験ではなく，商業科目の関連を重視して教科学習の定着と自ら取り組む「課題研究」への発展をねらいとすることは本校の最重要課題となっている。

その課題に取り組み解決していくことで，生徒が望ましい職業人として健全な職業観・勤労観などの豊かな人間性と自己教育力を育てることにつながると確信している。

〔質疑〕

（利尻）地元企業の協力はどのような状況か。また仕入れた商品の売れ残りはどうしたか。

（答）今年は十数店の協力を得たが昨年より減少しているが独自で仕入れた商品については売れ残りはなかった。また利尻高との委託売買も不十分ではあるが行った。

（北見高）平成元年から2年の総実において，販売員として地元スーパー・デパートで実習を行い効果をあげている。

（士別商）北見と同じ形で，地元の多種の企業で，3日間職場実習をしている。

〔協議題〕

ホームルーム活動における進路指導のあり方

深川東商業　笹原　光雄

進路指導は教育的プログラムであり明確な理念で計画させるべきである。つまり生徒の生き方・在り方をめぐる指導に位置付け学校教育活動の全領域を通じ低学年から発達段階に応じた進路学習の充実が必要となる。そこで①進路指導部の計画だけではなく学校全体を通しての実践計画が必要。②低学年からの進路指導の必要性。③ホームルームにおける進路指導計画。④ロング・ホームルーム活動において進路学習を充実させる。

〔質疑〕

（利尻）離職調査を各校でどのようにしているか。本校では担任，進路あてに卒業式の時にアンケートを渡し2ケ月後に回収している。

〔助言〕

・進路目標について具体的にそった実践的な研究発表であった。
・ロング・ホームルーム活動における進路を取り上げることは大切であり位置付けが今後重要である。
・離職については増加傾向であり，調査・検討する必要がある。

水　産　部　会

〔講演要旨〕

水産教育の現状と課題

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官
中谷　三男氏

①昨今の水産界，水産教育界の動向
②今後の水産教育の視点と課題
　○魅力ある水産教育
　○水産界の変化に対応した教育

その具体策として，ⓐ学習指導要領の定着ⓑ課題研究の指導対策ⓒ大学との連携ⓓ専攻科の活性化ⓔ国際理解教育の推進ⓕ海技資格関係の改善ⓖ栽培技術検定の活用ⓗ潜水技術教育の充実ⓘ情報処理教育の充実Ⓙ魚食需要の増大を促す水産教育の推進等が考えられる。生徒数が減少している今こそ水産教育の正念場であること，水産教育の充実が日本の教育の充実にとって不可欠であるとの認識に立って教育にあたる必要がある。

〔研修報告〕

次の三名による研修報告があった。

①産業教育指導者要請講座
　木村　　修（小樽水高）
②高等学校産業教育実技講習
　高嶋　一成（厚岸水高）
③情報処理教育担当教員養成講座
　廣瀬　知己（函館水高）

〔研究発表〕

新設科目－課題研究－の指導内容と指導方法はいかにあるべきか　南茅部　鈴木　一幸

各学科における新設科目の指導内容と指導方法はいかにあるべきか　厚岸水　池田　浩二

上記二件の研究発表があり，その後の研究協議において活発な質疑応答がなされた。その際の主な協

議項目はⓐ課題研究の内容，項目，指導時期ⓑ職業資格の扱いⓒ各学校での水産クラブ，プロジェクト学習の取り扱い方ⓓ水産クラブ発表会とし関連であった。

〔講評〕

道教育庁産業教育指導班　長尾英一主査より研究発表，研究協議などに対する講評があった。

①課題研究については手引きが年度内に発行されるのでそれを参考にして検討してほしい。

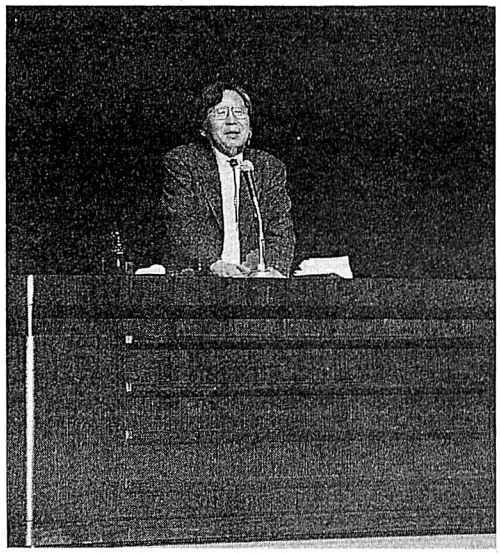
②来年度から北海道でも課題研究を科目として位置づけるので移行期間中にもとり入れて指導してほしい。

③この科目は他の科目と性格が異なっている。学科の枠を越えた指導も考えられるが，水産の枠は越えないようにする必要がある。

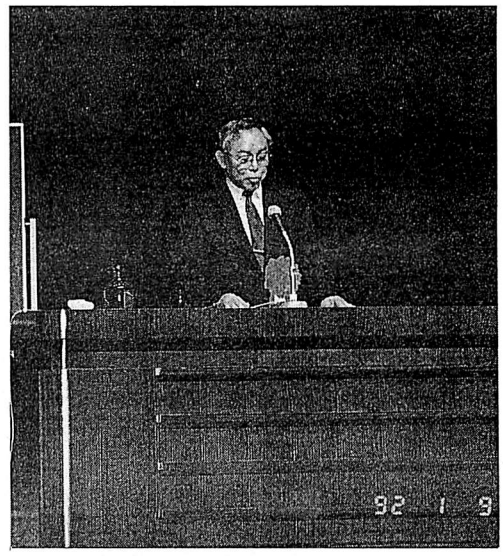
④課題の設定や処理の方法はこの科目だけでなく他の科目の中でも指導してほしい。

⑤水産クラブの発表のための指導と課題研究の指導は違った側面がある。両者の調整をはかる必要があろう。

⑥教育課程編成の基準が近く発表されるのでそれをもとにして教育課程の編成作業にあたってほしい。



①全体講演（なだ　いなだ氏）



②同（坂本　与市氏）

③会場前風景（厚生年金会館）